

視覚障害者スキーの現状と課題

－ブラインドスキーサミット2015の開催を通して－

1 目的

視覚障害者がレクリエーション・スポーツをしたいと考えたとき、その選択肢や機会は限られ、視覚障害者のレクリエーション・スポーツ環境はまだ充実しているとはいえない。このような状況の中で、いくつかの団体で視覚障害者のアルペンスキーが行われてきた。本稿では、かながわブラインドスキークラブの設立30周年記念事業として開催した同種の団体による情報交換会を報告し、視覚障害者スキーの現状と課題を明らかにする。

2 方法

かながわブラインドスキークラブ(写真1)の他、だいすきークラブ(神奈川、写真2)、シー・ハイル(東京、写真3)、TABS(東京、写真4)、三ツ星山の会(富山、写真5)の4団体の参加を得て、2015年10月3日(土)神奈川県ライトセンターで「ブラインドスキーサミット2015」(写真6)を開催し、活動状況やスキー誘導法、ボランティアの募集方法等について情報交換を行った。

3 結果

表1に各団体の基本情報を示した。活動開始時期は、かながわブラインドスキークラブとシー・ハイルが1980年代だった。他3団体も2000年前後から活動しており、いずれも10年以上の活動実績を有していた。

表2に各団体の活動状況を示した。シーズン中のツアー開催回数は、TABSの3回が最も多く、かながわブラインドスキークラブの2回がそれに続いた。他の3団体はいずれも1回の開催だった。ただし、シー・ハイルはアルペンの他にクロスカントリーのツアーを1回開催している。

スキー誘導は、原則視覚障害者1対晴眼者1とするのが2団体、晴眼者の数や視覚障害者の見え方、スキー技能によって1対1もしくは1対2とするのが2団体、原則1対2とするのが1団体だった。

指示は4団体が後方前向き誘導法が中心だったが、TABSでは前方前向き誘導法や前方後向き誘導法が中心だった。その他の団体でも、視覚障害者の希望によっては前方前向き誘導法や前方後向き誘導法も行っていた。指示内容は4団体が曲がる方向だったのに対し、TABSは、曲がるタイミングを「ターン」などの掛け声で知らせていた。誘導に使用する用具としては、3団体でワイヤレス式インカム・ヘッドセットやハンズフリー拡声器を使用していた。その他、全ての団体で滑走時には視覚障害者の団体であることが周囲から分かるビブスを着用していた。

ボランティア募集は、会員や過去の参加者、ロコミニなどの団体も中心だった。ポスター掲示やチラシ配布、HPやSNS利用は3団体が実施していた。また、TABSとシー・ハイルでは、ツアー会場付近の社協を通じて地元スキーヤーの協力を得ていた。

ボランティア育成は、各団体ともツアー当日に初参加者を対象に雪上研修を実施している。また、TABSやシー・ハイルは研修にビデオも利用していた。研修を目的としたツアーを実施していたのは、だいすきークラブのみであった。

今後の課題としては、いずれの団体もボランティアの不足を挙げているほか、TABSを除く4団体が高齢化を挙げており、若者のスキー離れの状況が伺えた。

4 おわりに

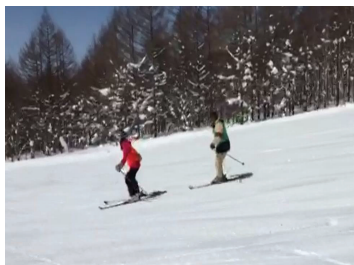
ハンズフリー拡声器など共有備品の購入や、役員・実行委員などの活動の資金の不足をあげる団体も複数あった他、各団体の共通の課題として、ボランティアの不足や高齢化が明らかになった。今後は、これら課題の改善に取り組みむとともに情報交換を継続して視覚障害者のスキー環境の充実・発展に繋げていきたい。

表1. 各団体の基本情報

名称	TABS	だいすきークラブ	シー・ハイル	富山三ツ星山の会	かながわブラインドスキークラブ
沿革	1995年3月 都盲協青年部主催のスキーツアー開始 2003年11月 「TABS(Tokyo Association for Blind Skiers)」設立	1983年3月 第1回神奈川障害者交流スキー開催 1989年3月 「だいすきークラブ」設立 2005年3月 初めて40人規模のクラブスキー開催	1976年 葛飾盲「雪国教室」開始 1986年 「シー・ハイル」設立	1999年7月 「富山三ツ星山の会」設立 2003年2月 高田盲等の協力でのブラインドスキーの技術導入 2004年1月 障がい者(ブラインド)スキー講習会開催	1980年1月 神奈川県視覚障害者援助赤十字奉仕団が行事「ブラインドスキー」開始 1985年8月 「神奈川県視覚障害者スキー協会」設立 2001年6月 「かながわブラインドスキークラブ」に改称
会員	会員/非会員の区別なし、登録者約110名(B約40、S約70、2015年4月現在) 会費:未徴収	会員:20名 (2015年4月現在) 会費:6,000円	会員:33名 (B27、S6、2015年4月現在) その他非会員のS60名程度	会員:150名 (2015年4月現在) 会費:2000円(家族会員3000円)	会員:97名 (B36、S61、2015年4月現在) 会費:2,000円
組織	実行委員:12名(B4、S8) (代表、事務局、会計、監事)	役員:会長・副会長・事務局長・会計・会計監査	実行委員:7名(B6、S1)	役員:会長・副会長・事務局長・副事務局長・会計 運営委員:15名(各担当あり)	役員:11名(B5、S6) (会長・副会長・事務局長・会計・広報・企画・監事) 実行委員:9名(B4、S5)

表2. 各団体の活動状況

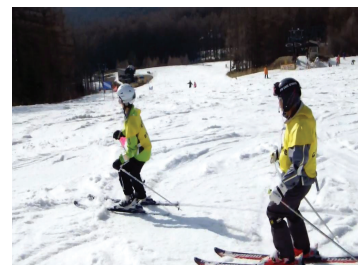
名称	TABS	だいすきークラブ	シー・ハイル	富山三ツ星山の会	かながわブラインドスキークラブ
ツアー	年3回:1月アサマ、2月妙高、3月裏磐梯	年1回:2月木曾福島 他に、神奈川障害者交流スキー(1月白馬乗鞍)に参加	年1回:3月戸隠 他に、クロスカントリースキー(2月裏磐梯)を実施	年1回:1月立山山麓	年2回:1月岩原、2月尾瀬岩鞍
運営	ツアー実行委員会を8月から1回開催	総会を年1回、例会を毎月1回開催		総会を年1回、役員会を毎月1回開催	総会を年1回、役員会を毎月1回開催 ツアー実行委員会を9月から3月に毎月1回開催
その他	懇親会を毎年11月に開催	年2回レクリエーションを開催 会報「クラブニュース」を年4回発行(予定)	(秋のハイキング)を10月上旬に開催 1986年より寄席を開催 (2014年1月の第27回で終了) 1991年暮れフランス・ティニユでスキー交流 1997年1月、スイス・サンモリッツ盲人スキー学校で研修	例会を毎月1回、休日に県内・隣県にて開催(登山・バスハイク等) 全国の同種団体との交流、音楽活動・食事会等実施 社協との協働、学校へガイド派遣など社会貢献活動も実施。	研修会を夏と冬の2回開催 シーズン前にはハイキングなども企画 会報「クラブニュース」を年3回発行



TABS



だいすきークラブ



シー・ハイル



富山三ツ星山の会



かながわブラインドスキークラブ



スキーサミット